

# 5月 被災地支援ボランティア募集中



日時：2014年5月9日(金)～10日(土)

場所：宮城県亘理郡山元町

内容：仮設・復興住宅での健康相談、レクリエーション、清掃作業など

※内容は現地との調整により変更になる場合があります。

対象：医学生

定員：5名

費用：自己負担 3,000 円（交通費、宿泊費、食費込み）

※ボランティア保険に未加入の方は、加入金 690 円が必要です

持ち物：雨具、健康保険証、着替え、現金など

申込：4月23日(水)午後5時までに下記連絡先までお申し込み下さい。

※定員に達し次第、募集を締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み下さい。

## ボランティア行程表(予定)

### ◆9日

19:30 伊丹空港出発  
21:00 仙台空港到着  
ホテル前泊

### ◆10日

7:30 被災地見学  
9:00 活動開始  
19:00 仙台空港出発  
20:30 伊丹空港到着

※行き帰りの時間は変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

☆お問合せ・お申込み先☆

兵庫民医連・医学生ボランティア係 E-mail : igakusei@hyogo-min.com

※件名に「被災地支援ボランティア参加希望」、本文に「名前・学校名・学年・年齢・性別・住所・電話番号」を入力下さい。

— 兵 庫 県 民 主 医 療 機 関 連 合 会 —



震災直後から被災地への継続的な支援活動を行ってきました。  
これまでに多くの医学生のみなさんがボランティアに参加してくれています。  
一人一人のできることは小さなことかもしれませんが、しかし、現地での活動の  
一つ一つが被災地の支えになり、また被災された方々の支えとなります。  
参加したみなさんの感想を一部紹介します。

⇒これまでの活動は内容はホームページからご覧いただけます。

[兵庫民医連](#) [医学生](#)で検索



震災から2年が経過しているが、津波の被害を受けた地域の復興はあまり進んでいない印象を受けた。ガレキ類は片付いているが、家の再建やコミュニティの構築などはまだまだであると思う。

近畿大学1年生Aくん

東北の現状を自分の目で見て、感じ、考えることに意味があるんだと考えました。高齢者の方達と触れ合い、関われることで、すごく喜んでくれていました。将来、医師になった時の最も基本的なやりがいを感じることができました。

近畿大学1年生Bくん



被災地の様子を一年ぶりに直接見て、復興は進んでいないと思った。仮設住宅に住まれていたが、自分の畑を無くしてしまった方の話を聞いて、誰かが被災地に行く、話を聞くということが大切だと感じた。関西と東北では震災に対する関心が全然違うので、自分もまわりに現地の様子を伝えるなど、何かしらの支援をしていきたいと思った。

兵庫医科大学3年生Cさん



仮設住宅という環境において十分な勉強ができていない子供たちに対して、どのような支援ができるかを考えていくことが、自分にとっても、地域にとっても、課題なのだということがわかりました。

神戸大学1年生Dさん

老人憩いの家での運動や手作業によって生まれる笑顔が被災者の心をいやすことが分かり、こういったことが健康にもつながり、大切なのだと感じた。

関西医科大学2年生Eくん



被災された中学生・高校生がやる気をなくし、十分な教育を受けれていない状況を知り、かなり気になった。自分の進路の選択を増やすことが勉強だと思う。思春期の中学生や高校生は、こころの変化が激しいと思うので、学習支援や心のケアが必要だと感じました。

大阪医科大学5年生Fさん